教科等研究会（中学校総合的な学習の時間部会）
令和５年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

生徒が主体的・創造的・協同的に取り組むことができる探究活動の在り方
～生徒一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」授業づくりを通して～

２　研究経過

	期日	人数	活動内容	場所
第１回	6/20（火）	9	研究テーマ・計画・組織等協議　　（半日）	御船中学校
第２回	8/7（月）	8	①地域の方からの講話 ②評価等の説明、しごと学びWEBライブ（半日）	カフェコンフィチュール 御船中学校
第３回	11/13(月)	6	研究授業・授業研究会　　（半日） 単元名：「山都町の地域のよさを知る 」 授業者：杉本　那美　教諭	蘇陽中学校
第４回	1/29（月）	8	研究のまとめ（実践レポート研修）　（半日）	御船中学校

３　研究の概要

(1) 研究の内容

本部会では、「生徒が主体的・創造的・協同的に取り組むことができる探究活動の在り方」を研究テーマに設定して取り組んだ。また、学習指導要領では、「探究的な学習」「各教科等で育成する資質・能力を相互的に関連付けることや育成すること」が重視されている。本部会では、各教科で育成した資質・能力を総合的に発揮し、未知の状況に対応できる力を身につけさせたいと考えた。そのためには生徒が学びたいと思えるカリキュラムを計画的に設定し、「分かる・できる」「楽しい」という学習への満足感を高めることを目指し、副題に取り入れて研究を推進していくこととした（資料１）。

〔資料１〕研究構想図

① 学習指導要領趣旨理解の研修（第１回、第２回）

本年度も、部会員の構成が大きく代わったため、学習指導要領の改訂の趣旨や要点・目標・内容に関する改善点を確認するとともに、新学習指導要領の方向性について研修を実施した。

まずは「総合的な学習の時間とは何を学ぶ場なのか」を考え、意見交流を行った。社会に出るために必要なことを学ぶ場、地域の方々と出会わせることで自分の生き方を振り返る場など様々な意見があった。次に「総合的な学習の時間で目指したい生徒の姿」について考え、意見交流を行った。様々な出来事の背景にある目に見えない価値や意味を真剣に問い掛けながら、その本質を自分なりにとらえようとしている姿であることを確認した（資料２）。そのために必要なことのひとつとして「探究的な学習」が挙げられ、探究のプロセスを意識することの重要性を共有した。

また、今年度も「指導と評価の一体化」のための学習評価について方向性を確認し合う場を設けた（資料３）。

総合的な学習の時間で目指したい姿

様々な出来事の背景にある目に見えない価値や意味を真剣に問い掛けながら、その本質を自分なりにとらえようとしている姿→探究

〔資料２〕目指したい姿

通知表の評価の方向性

	１学期	２学期	３学期
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

１年間で３観点が網羅できるようにすること

〔資料３〕評価の方向性

②「上益城郡人材登録バンク」と「しごと学びWEBライブ」（第１回、第２回）

昨年度の課題として、上益城郡人事登録バンクをさらに広げ、それぞれの学校のニーズにあわせて地域人材を活用しやすくできるようにしたいという意見が挙がった。地域学習の系統性・連続性・発展性があると、各学校の特色を活かした学習になるからであると考えられる。しかし、総合的な学習の担当になると、地域の方々とのつながりをつくるきっかけづくりに苦労することがある。そこで、今年度「しごと学びWEBライブ」を部会として紹介することとした。

〔資料４〕しごと学びWEBライブ紹介HPより

しごと学びWEBライブは、１つの製品に関わるサプライチェーンに携わる企業人からしごとの思いや職業観を伝えてもらい、児童生徒からの感想や質問に対してオンラインを活用して意見交換を行う双方向性のキャリア教育プログラムである。生徒たちの職業観の育成や地元愛の醸成をねらいとして企画された（資料４）。

〔資料５〕チャット機能で質問を入力する生徒

今年度は御船中学校、嘉島中学校で実施した。デジタル機器等のトラブルは多少あったものの、より多くの職業人の話を聞くことができ、生徒たちにとって有意義な時間となったと考えられる（資料５）。

③　地域の方（藤崎　清美さん）による講話（第２回）

御船町で様々な町おこしの活動をされている藤崎清美さんに次のような講話をしていただいた（資料６）。

〔資料６〕藤崎さんが経営するお店での研修会

藤崎さんがジャムづくりのお店を経営する前は、歯科衛生士さんとして働いていた。ジャムをつくるときの食感や香り、見た目（果肉の形）にこだわるなど、その時の経験は今でもまだ生かされている。ひとりで店を経営しているので、自分なりの店のイメージをもって受け入れるものとそうでないものを明確にしていることや、頼るところは頼るなどひとりでがんばりすぎないバランス感覚を大切にされている。ひとりで経営しているので何があっても「人のせいにしない」ことをモットーにしている。

〔資料７〕素材を生かしたジャム

ジャムの素材を見つけるために情報収集はいつも行っている。新作を楽しみにされているお客さんをがっかりさせないように努力している。素材の味を最大限に引き出す方法を考えることは、子どもたちのポテンシャルを伸ばすことと少しつながっている。信じられている子どもは伸びると思う（資料７）。

その後、藤崎さんと参加者で質疑応答を通して、ジャムづくりや藤崎さん自身の生い立ちなどを聞かせていただいた（資料８）。

〔資料８〕温かい雰囲気で研修会ができました

【参加者の感想の一部】

・授業の教材研究につながると感じた。人生の一つ一つがつながっているので、今を大切にしたいと思った。

・自分で判断して自分で選ぶ自己決定力と言葉をもっと広げようというメッセージを生徒にも伝えたい。

・「無添加だから統一感がないんです。でも、それでいいんです。」という言葉に生き方の幅広さを感じました。

・熊本の食材の良いところを見つけて、その素材を生かす視点を日々の教育活動に生かしていきたい。

・起業家精神を学びました。これからの未来を生きていくヒントがつまっていたように感じました。リーダーの経験を積ませたり、自分の得意な技を伸ばしたり、自分で自分の未来を切り拓くための可能性に気づかせることが大切であることを感じました。

(2) 成果と課題

成果

・学習指導要領の完全実施により、各校での全体計画、年間活動計画、単元計画の見直し、作成を行うことができた。また、評価の方向性も郡内で確認することができた。
・地域の良さを発信されている方との交流ができたことで、「学ぶことの意味」や「生き方」を改めて見つめ直すことができた。
・上益城郡人材登録バンクの設立やしごと学びWEBライブの活用により、学区を越えて郡全体で地域人材の活用を推進することができた。

課題

・来年度は、県の熊本の学びステップアップ研修を取り入れ、各学校の実践に役立てるような情報を共有していきたい。
・上益城郡人事登録バンクをさらに広げ、それぞれの学校のニーズにあわせて地域人材を活用しやすくできるようにしたい。

4　実践事例

(1) 授業研究会の概要

単元名「山都町の地域のよさを知る」
授業者：蘇陽中学校　　杉本　那美　教諭
本授業は、１年生の探究学習「情報収集・まとめ・表現」の導入の授業であった。

〔資料９〕GTを活用した授業

① 自評
・山都町のよさに気づいてほしいという願いで、GT（給食の先生）に協力してもらい授業を行うことができた（資料９）。
・自分たちの生活とどうつながっているのかをもっと意識できるようになる授業にできたらよかった。

〔資料10〕研究協議の様子

② 質疑応答
Q　GTとの打ち合わせでどのようなことを確認したか。
A　話す内容として、有機野菜を活用するにあたっての思い（地産地消にこだわりたい）や調理法・素材の活かし方について確認した。また生徒が考えた献立が採用されるのかについて確認した。
Q　今後の学習の見通し（１学年から３学年までの系統性）はどのようになっているのか。
A　地域の食材について考えたことをきっかけに、１年生の３学期では職場訪問、２年生では職場体験学習、３年生では未来の食について考えることにつなげていきたい。

〔資料11〕話し合いの様子

③ 研究協議（資料10）
この授業において、研究テーマ「生徒が主体的・創造的・協同的に取り組むことができる探究活動の在り方」の具現化に近づいていると感じた場面はどんなところだったのかについて協議を行った。
【主体的】～ふるさとを誇りに思う気持ち～
・自分たちの献立が採用されるかもしれないと知ったとき、話し合いが活性化した（資料11）。
・GTに自らアドバイスを求めに行った生徒がいて、そういう姿勢がいいと思った。
【創造的】～よりよいものをつくりあげる～
・有機農業のPR動画を紹介したことは、オリジナル献立づくりを学習することと、「よりよいものをつくりあげて発信する」ということでつながっていると感じた。
【協同的】～班ごとの話し合い活動による高めあい～
・ホワイトボードやICTを活用して、話し合い活動の成果を自分たちで実感できる手立てがあると、もっと次につながる活動になると感じた。

④ まとめ（岩坂校長先生より）
通潤橋が国宝になったことで山都町が活性化している。「有機農業」のよさと同時に「生産力を上げる農業」のよさも考えたり、山都町のよさと同時に課題（観光スポットや食事スポットなどの情報発信）も考えたりできたら、もっと学校教育目標につながる深い学習になるのではないか。これからも「ふるさとに誇りを持つ」生徒の育成のために力を尽くしてほしい。

(2) 学習指導案

① 本時の目標　地域の農産物について協同的に調べることを通して、地域でとれる食材のよさに気付き、食生活に活かそうとする態度を育てる。

② 本時の展開

過程	学習活動（○予想される生徒の発言）	指導上の留意事項
導入 5分	**1　課題をつかむ。** 【学習課題】 地域の良さを再確認しながら、ふるさとを誇れるようになろう。 【本時のめあて】 山都町の有機野菜がどのような使われ方をするのか、考えを交流しよう。 （1）山都町が日本一なものは何か考える （2）有機農業についての動画を視聴する	1 地域における産業の特徴（有機農業）に目を向け、今後の学習の見通しを持たせる。 1 学習課題や地域の有機農業に対する興味関心を高めさせる。
展開 40分	**2　有機農業における生産物について知る。** （1）有機栽培している生産物を予想する ○ブルーベリー、トマト、椎茸… ○１６種類もあるんだ。 **3　山都町における有機野菜を使った給食献立を考える。** （1）GT（給食の先生）の話から、有機野菜を使う際の思いについて学ぶ。 （2）蘇陽中学校の給食献立表を見て、山都町の特産物がどのくらい使用されているのかを探す。 （3）有機野菜を用いたオリジナル給食献立を考える。 ○大根を使った献立を考えよう。 ○野菜の調理方法にはどんなものがあるのだろう。 【期待される学びの姿】 地域の特産物について知り、地域の産業が豊かな理由を自分自身の生活と関連付けて考えようとする姿 **4　学習のまとめをする。** （1）考えた献立を共有する。	2 出てきた予想は板書し、有機農業における生産物について、農産物カレンダーを参考にしながら、野菜の旬について説明する。 3 地域産業を学ぶことの意義を感じさせ、今後の学習に主体的に取り組む気持ちを持たせる。 3 様々な月の給食献立表から探すことによって、山都町の有機野菜が１年を通して使用されていることに気づかせる。 3 班に分かれて調べ学習を行うことによって、自分の役割を持ち、生徒同士が意見交換を行いながら協同的に活動できるようにする。 【具体の評価規準】知識② （方法：発言・ワークシート） ・給食献立表を見て、地域の特色によって自分の食生活が支えられていることが分かる。 【到達していない生徒への手立て】 ・使用されている食材が山都町で多く生産されている理由を考えさせることによって、地域の土地や気候に恵まれていることに気づくようにする。
終末 5分	**5　本時の振り返りをする**	5 分かったこと、感じたこと、今後取り組みたいこと等、学習の振り返りをさせる。

③ 本時の評価

○評価規準・・・①地域の自然、産業等のよさ、課題が分かる。
②地域の自然や営みと自分との関わりが分かる。
③情報を比較、分類、関連付けて考えるなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。

○評価方法・・・②発言・ワークシート

○評価時期・・・②授業中と授業後